

の恩恵に慣れ過ぎてこの水を守ることを知らなかった。これがために水は次第に我々の生活から遠ざかり、このような事態の発生を見るに至った。汚濁の因をなすものとして、さまざまの問題が挙げられているが、川を汚すものは人であり、またきれいにするのも人であって見れば、まず流域二十万住民の自覚が必要であり、この人達が、これではいけないと行動したとき、はじめて川はきれいに復元される。

我々の生活に一刻も欠くことのできないものは水であり、桜川の流れである。この流が霞ヶ浦の水源となり、上水となって土浦市民に供給される。つまり我々が日常飲料水として使用している水は、この川の水であり、いかに化学的処理が行われるといっても、処理には限度があり、汚れていてよいはずがない。これが為に浄化処理料が高くしかも飲料水としては最低にまずい水を市民は飲んでいる。これでよいであろうか？、人間生活の一生を通じてこんな損なことはない。この点から考えてみても桜川を美化し、汚水道から浄水道に変えなければならぬ。もし、現況のまま放置するなれば水質悪化が増

進して上水として使えなくなり、その騒ぎは想像以上のものとなるうしそれでは手遅れである。昨年に於ける霞ヶ浦上水の事情を想起すると、霞ヶ浦の水瓶化現象起因として水質が悪化して水道法に基く化学的処理では飲料水として供給できない事態が発生した。当局は緊急処置として湖畔二ヶ町に深井戸を掘り、一日の給水量二万トン中に井戸水四千トンを混入中和して辛うじて急場をしのぐ状況にあった。

このような事件がすでに市民の身近で起きて居り、安閑としては居られない。それにもかかわらず流域に汚物や塵芥を捨てて居る行為が続いているのは、世の風潮とはいえあまりにも理解し難い。誰れも自分の井戸にゴミを捨てる人はいないはずだが？、口では公害を批判し、自ら公害の因をつくる、このようなことでは川は決してきれいにならない。施策行政も必要だが、これを行うのも人である以上、桜川の環境保全問題に就いても、もっと流域住民が関心をもち、そして理解してもらいたい。そして、これではいけないと自覚したときに責任が持てることになる。このように底辺から盛りあがる力がなかった